

**第２号**

令和５年９月１５日

富山県立富山総合支援学校

進路指導部

「高等部における進路指導の取組について」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　高等部主任　脊戸　英樹

高等部では、卒業後の進路を考えるために、就業体験・生活体験を実施しています。体験先については、本人及び保護者の希望を基に、進路指導主事を中心に、担任や学年主任が一緒に検討し決めています。

就業体験では、本人の希望や適性の他、体験先での受入れ体制、通勤が可能かを、体験を通して確認しています。就労するためには、一人で通勤できる力、健康管理を含めた基本的な生活習慣の確立、働くことに耐えることのできる体力、役割を果たし責任感をもつこと、必要なコミュニケーションがとれる力が不可欠であり、その上で、与えられた場で真面目に働くことが求められます。これらの力は、就業体験の時期に限らず、ふだんから少しずつ、学校生活でも、家庭生活でも、心掛けて積み重ねていくことが大切です。

また、福祉事業所での生活体験は、本人が卒業後どのような場所で、どのように過ごしたいかを想定して体験先を選びます。本人が自分らしく自立して生き生きと過ごせる場所を学校と家庭が一緒に考えることが大切です。

生徒の自立と社会参加を目指し、よりよい進路選択・決定につなげるため、学校と家庭が連携し、協力して支援することが重要になります。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

*高等部就業体験・生活体験*

☆就業体験・生活体験を行いました。

高等部２年生　就業体験先　（６月１２日～６月２３日）

＜企業等＞

・中野工業株式会社　　・株式会社桑原　　・アイディック株式会社立山デリカセンター

＜就労継続支援事業所＞

・就労継続支援Ａ型事業所　ひまわりワーク富山本店、清水元町店

・就労継続支援Ａ型事業所　self-Ａ・ハニービー環水公園前

・就労継続支援Ｂ型事業所　ジョブスクールさくらだに

・就労継続支援Ｂ型事業所　ジョブステーションさくら長江事務所

・ＮＰО法人　多機能型施設　生活介護・就労継続Ｂ型　あかりハウス

高等部３年生　就業体験・生活体験先　（６月１２日～６月３０日）

＜企業等＞

・株式会社金沢ジャーマンベーカリー富山マルート店　　　　　・株式会社不二越

・株式会社大阪屋ショップ　魚津釈迦堂店　　　　　・アルビス株式会社　アリス店

・太平ビルサービス株式会社　富山支店　　　　　　・富山総合ビルセンター株式会社

・株式会社エービーシー・マート　ＡＢＣ―ＭＡＲＴ富山マルート店

・有限会社日本海プリパックセンター

＜就労継続支援事業所＞

・就労継続支援Ａ型事業所　ｓelf-Ａ・ハニービー環水公園前

・就労継続支援Ａ型事業所　ほまれの家滑川店

・就労継続支援Ｂ型事業所　ジョブステーションさくら　北部事業所

＜生活介護事業所＞

・社会福祉法人秀愛会　多機能事業所あゆみの郷

・ワ―カウト富山

・社会福祉法人恵風会　富山市生活介護事業所　第２あすなろ



体験生徒の感想・保護者アンケートより

最初は不安そうにしていましたが、熱心に体験に取り組んでいました。疲れた様子が何度かみられましたが、最後まで一生懸命に頑張っていました。（就業体験・保護者）

体験では、仕事に集中したり、素早さを意識したりして取り組みました。会社の方が、優しくて、分かりやすく教えてくれました。

（就業体験・生徒）







ベアリングの筒入れを早くできるように頑張りました。これからは、ミスがないように数を確認することに気を付けたいと思いました。

（就業体験・生徒）



体験先の方にとても良くしていただき、子どももここで働きたいという気持ちが強くなったと思います。次回の体験や４月からの就業に向けて、気を緩めずに頑張っていこうと思います。

（就業体験・保護者）

今回の体験を通して、丁寧に素早く仕事をすることが大切だと思いました。また、立ち止まって相手の顔を見て話を聞いたり、話したりできるように気を付けたいと思います。（就業体験・生徒）

最初は不安がっていた本人も、徐々に慣れて笑顔がみられるようになり、作業では、インク並べを頑張っていたと聞いて、子供のやる気や成長を感じることができました。今回の体験を通して、この先も子供が成長できる場所であることが大切だなと親も気付かされました。

（生活体験・保護者）

作業で教えていただいたことは、もっと上手になりたいと思いました。失敗したときには、ちゃんと報告するよう気を付けました。これからは、集中してけがやミスがないように作業できるようになりたいです。（就業体験・生徒）





各学部の取組

小学部　～仕事体験より～

仕事体験を希望する小学部６年生の児童が、キャリア教育の一環として、富山型デイサービス事業所等で手伝いや働く体験（事業所で行われている補助業務の一部の体験）をしました。体験した児童は、いつもと違う環境に戸惑いながらも、名札をもらい挨拶をして活動が始まると、タオル畳みや新聞紙折りなどの活動に熱心に取り組むことができました。

中学部　～夏休みの生活より～

（保護者より）スーパーマーケットで、カートを押したり、選んだ食品をカートに入れたりしてくれました。（中３生徒）

朝から夕方までデイサービスで過ごしました。廊下の手すりを拭いたり、モップ掛けをしたりするなど、お手伝いを頑張りました。（中１生徒）



二つの学校の高等部体験学習会に参加してきました。とても緊張しました。どちらの学校に行きたいか真剣に考えました。（中３生徒）

高等部　～職業講話「先輩に学ぶ」～ら　　　　　　」より～

８月１日に、高等部の就労希望生徒と保護者を対象に、就労している卒業生３名から、現在の仕事内容や通勤方法、在学中にしておけばよいことなどの話を聞きました。その一部を紹介します。

・人間関係をよくするため、協力して働くためにも挨拶をすることは大切です。

・メモ帳をいつも持っていて、間違えないよう言われたことをメモしています。

・決まった時間内に仕事を終わらせるよう、数を間違えないよう気を付けています。

・助けてもらったとき、「ありがとうございます。」とお礼をするようにしています。

・お客さんから「ありがとう。」と言ってもらったときは、うれしかったです。

・大変な作業でも「もう少し頑張ってみよう。」と思って作業に取り組むことが大切です。





在校生は、自分の就業体験を思い起こし、将来の仕事に必要なことを卒業生から学ぼうと、積極的に質問していました。良い学びの時間となりました。

第１回インターンシップ推進委員会報告

インターンシップ推進委員会を開催しました。

日　時：７月４日（火） １３：３０～１５：００

委　員・富山公共職業安定所　就職促進指導官

・富山障害者就業･生活支援センター　就業支援ワーカー

・朝日印刷ビジネスサポート株式会社　管理部　部長

・特定非営利法人ＴＥＡＭappreciate

多機能型事業所ジョブスクールさくらだに　施設長

・特別支援学校就労応援コーディネーター

・学校関係者

協議内容：令和５年度事業計画について

令和４年度卒業生の進路先について

令和５年度高等部３年生・２年生の就業体験について　他

協議では、それぞれの立場から、就労を目指すにあたり必要なことや福祉事業所から一般就労に結び付いた事例などを教えていただきました。

○就労を目指すにあたり必要なこと

　・挨拶など基本的な態度が身に付いていることが一番大事である。きちんと返事をすることも大事である。

　・働きたいという気持ちを盛り上げる。「褒められる、感謝される、役に立った。」などと本人が感じることでモチベーションは上がる。モチベーションが上がると、褒められなくてもやり始めたり、自分から進んで行ったりする。「教えてもらったらできた。」「できたら褒められた。」などの成功体験が大切である。

　・失敗したときに注意された際に、注意された理由やどう克服すればいいのかを教師や支援者等に相談することを生活の中で経験していくことで、働き始めても自分から対応したり、いろいろな支援機関に相談したりできるようになる。

○福祉事業所から一般就労に結び付いた事例について

　・Ａ型事業所から一般就労につながった事例は、昨年度は２０～３０件程であった。

　・社会人としてのマナーやコミュニケーションなどを身に付けるために、学校卒業後、福祉サービスを活用することも選択肢の一つとして考えられる。

これらの意見を参考に、家庭と協力して、働くために必要な力を育てていきたいと思います。

　次回は令和６年１月１９日（金）の予定です。児童生徒の自立と社会参加の推進を目的に、今後も関係機関と連携して、就労支援の充実を図っていきたいと思います。